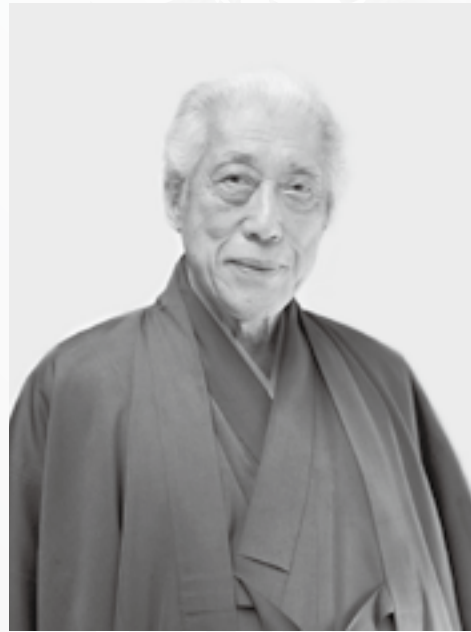




茶道裏千家十五代・前家元
ユネスコ親善大使 / 小松市名誉市民

千 玄庵

茶室「玄庵」開庵二十周年を祝す

千玄室さんから小松市へメッセージをいただきました

加賀前田家三代利常公に出仕した裏千家四代仙叟宗室の屋敷跡に、茶室「玄庵」が設けられて今年で早や二十周年になり有り難いことと心より感謝しております。

開庵の折には、記念講演や茶会を催し、多くの方にご参会いただき御先祖さまへの御礼も果たせたかなあと感じております。その後の二十一年間で「微妙会」をはじめ、市民茶会や催事などで多くの方々に十二分に利用されていくことを仄聞し、茶道文化の普及にお役にたつていくこと嬉しく存じております。仙叟居士が茶道茶具奉行とし

て利常公に召し抱えられ、金沢から小松城に出仕することになったのは三十歳のときでありました。その後は京都から大樋長左衛門を同行して大樋焼を開窯させたり、宮崎寒雉に釜の指導をするなど、加賀文化への発展に大きく貢献したのでございます。そればかりでなく裏千家歴代と加賀との関係は幕末まで続きました。

開庵二十周年記念の本年を礎として今後この玄庵が教養と心の文化交流の場として、さらなる発展がなされることを心より念じて、御祝いと御礼を申し上げます。

特集 仙叟屋敷ならびに玄庵開庵20周年

小松に広がる茶の湯のこころ

芦城公園の中にある茶室「仙叟屋敷ならびに玄庵」。
これまで多くの皆さんに利用され、茶道文化に触れる場として親しまれてきました。
小松の茶道文化の広まりのルーツとは……その歴史をひも解きます。



▲仙叟宗室没後300年を記念して十五代・前家元から寄贈いただいた茶室「玄庵」。



▶宗旦万円之図写 仙叟筆 江戸時代17世紀
(個人蔵)
宗旦が書いた図を仙叟が写したものの。



裏千家の流祖・仙叟宗室と 前田利常公との出会い

加 賀前田家初代利家公や二代利長公は、利休から茶を学んでいたと言われ、前田家は代々茶の湯をたしなんでいたました。

利常公も同様に、江戸では小堀遠州、金沢では金森宗和を師匠として茶を楽しんでいたと言われています。

1639(寛永16)年、利常公は藩主の地位を長子の光高公に譲り、その翌年小松城に隠居しました。そして、1652(慶安5)年に仙叟を召し抱えます。



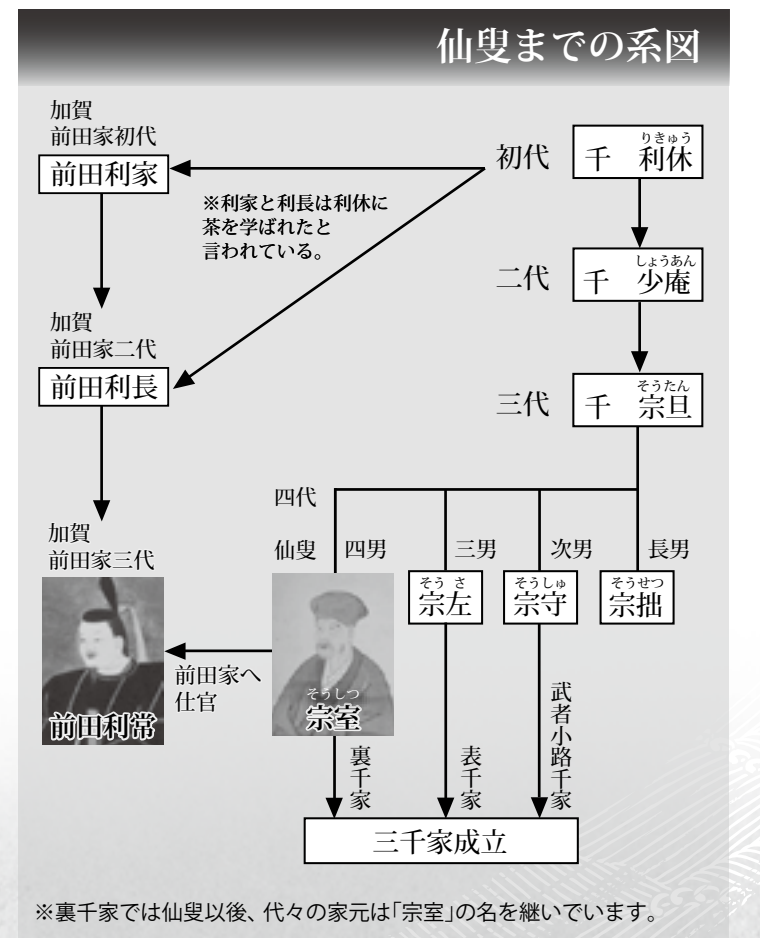
千家茶道の再興： 仙叟の父・宗旦の努力

小 松の茶道の始まりを語る上で重要な人物が、仙叟宗室と加賀前田家三代前田利常公です。
その2人を結び付けたのが仙叟の父・千宗旦です。

茶道の大成者・千利休亡き後の茶道界は「大名茶」と呼ばれる武家の茶が中心でした。利休の侘び茶を受け継いでいた千家三代・宗旦には当時利

休の茶風を慕う多くの大名家から招請がありました。自身は仕官することを拒み、代わりに子供達を大名家へ仕えさせる努力を惜しまなかったといわれています。

その結果、各地に千家茶道が伝えられ、宗旦の四男で後に裏千家の流祖となる仙叟も、加賀前田家に仕官することとなります。





町人にも普及した茶道文化

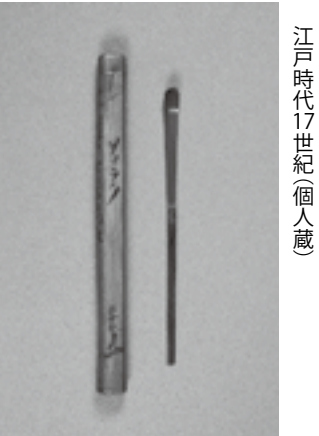
小 松に茶道茶具奉行として出仕した仙叟は、利常公が小松城内で66歳の生涯を閉じるまで仕えま

した。仙叟はその間、家臣はもとより城に入りする商人や、町役をしていた町人にも茶道を教えました。

仙叟が小松の町人と交流していたことを物語る茶杓「ヨソラク」が今に

残っています。仙叟自らが削ったこの茶杓は、小松の町人で文化人であった越前屋七郎右衛門に贈られたものです。銘には「おそろく二度と会うことはないだろう」という惜別の気持ちが入められており「一度の機会を互いに誠意を込めて尽くせよ」という茶会の心得である「一期一会」につながる

▲竹茶杓 銘「ヨソラク」仙叟 江戸時代17世紀(個人蔵)

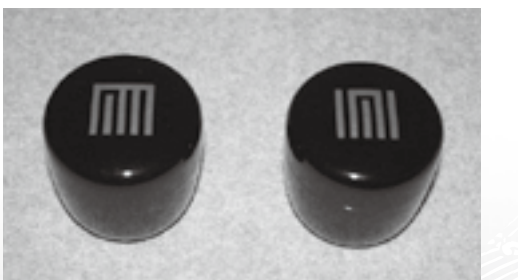


る思いが伝わってきます。

金沢の茶人が記した茶会記には、茶会が小松で催された記録があり、その中には越前屋七郎右衛門の名前があります。このことから、仙叟を介し、小松でも茶の湯が町人にまで広まっていたことがうかがえます。

明治、大正期になると小松を代表する数寄者、沢守半翠を中心に、小松の茶道文化は更に発展しました。

こうして利常公と仙叟により小松城下に茶の湯が広まって以来、小松の茶道は絶えることなく受け継がれてきました。そのことはまた、茶の心と小松人の風雅を愛する心もつないできたと言えます。



▲源氏香之図棗 橋姫(左) 篝火(右) 1923(大正12)年(各個人蔵) 半翠が発案し、54個の棗を当時茶をたしなんでいた54人の同志で分け合った。



▲源氏物語五十四帖香の図(扁額) 沢守半翠 ほか 1924(大正13)年(小松天満宮蔵) 源氏香之図棗を分かち合った54人の小松の茶人の名が記されている。

開庵20周年記念 本陣記念美術館特別展

つながる茶の心 仙叟から小松人へ

前田利常公と仙叟から始まり、今日の小松の茶道発展につながる事跡を資料や美術工芸品を通して紹介します。

会期 4月21日(金)～6月11日(日)
ところ 本陣記念美術館

開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで)

入館料 300円(高校生以下無料)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

◎ギャラリートーク

学芸員による展示品の解説を行います。

とき 4月22日(土)、23日(日)、5月28日(日)
いずれも11時～14時

問い合わせ 本陣記念美術館 ☎22・3384

▶沢守半翠制作の茶道具 (個人蔵 大正昭和前期)



和敬 清寂

受け継がれる茶の湯のこころ

仙叟屋敷ならびに玄庵を開庵当初から利用いただいている小松裏千家茶道会の皆さんに茶道の魅力を伺いました。

茶 道は金や茶碗、掛け軸などの「工芸・美術」、茶庭や茶花から感じる「生命力・季節感」、そして客人をもてなす「道徳心」など様々な文化や精神が融合しており、まさに「総合芸術」と言えます。こうして日本の伝統美を一度に堪能できるのが茶道の魅力の一つです。

▲仙叟屋敷でのお茶会の様子



▶小松裏千家茶道会の皆さん

「小さい頃から茶道に触れることで、相手を思いやり、感謝する心が自然と身に着きます。流派を問わず気軽に利用できる仙叟屋敷ならびに玄庵で、今後多くの方に茶道に親しんでほしいです」と語るのは小松市茶道協会会長の岩谷宗美さん。小松に息づく茶の湯のこころはこれからも受け継がれていきます。

仙叟屋敷ならびに玄庵開庵20周年記念

～仙叟居士ゆかりの地で茶の湯文化にふれる～

特別記念講演

とき 4月22日(土) 13時～14時30分
ところ こまつ芸術劇場つうら大ホール

講師 茶道裏千家十五代・前家元 千玄室氏
演題 御先祖の御かげ

記念茶会

宮本三郎画伯の風景画とともに茶会をお楽しみください。

とき 4月22日(土) 午前の部…9時～12時、午後の部…15時～17時
ところ 宮本三郎美術館

受付 絵本館ホール夢の本棚
演奏 岩谷香里(チェンバロ)

記念講演・茶会共通チケット

料金 1000円(当日券1500円)

販売場所 こまつ芸術劇場つうら ☎20・5501、チケットぴあ(Pコード634・793)ほか

同時開催展

◎こまつ匠の技
～伝統の美と技を次代に紡ぐ～

小松瓦や小松畳など、お茶室で用されている匠の技を紹介します。

とき 4月22日(土)、23日(日)
ところ こまつ芸術劇場つうら催事場

◎こまつ茶の湯物語
～今、三百六十年の時を超えて～

利常公から始まるこまつ茶の湯の歴史ロマンに迫ります。

とき 4月22日(土)、23日(日)
ところ こまつ芸術劇場つうら市民ギャラリー

茶庭一般公開

20周年を迎えたお茶室を茶庭からご覧いただけます。

とき 4月22日(土) 9時～12時、23日(日) 10時～15時
ところ 仙叟屋敷ならびに玄庵